

分ユルく書レタリ、スベテソノ如クニテ、一生ノ間ウロタヘタルコトヲ見スルコトナシト、元
鱗ナド語レリ、

〔石田先生事蹟〕先生○石田梅巖曰く、われ性質理屈者にて、幼年の頃より友にも嫌はれ、只意地の悪し
き事有しが、十四五歳の頃、ふど心付て是を悲しく思ふより、三十歳の頃は大概なほりたりと思
へど、猶言の端にあらはれしが、四十歳のころは、梅の黒焼のごとくにて、少し酸があるやうにお
ぼえしが、五十歳の頃に至りては、意地悪しき事は大概なきやうにおもへり、
先生五十歳の頃までは、人に對し居給ふに、何にても意にたがひたる事あれば、にがり顔し給ふ
様に見えしが、五十餘になりたまひては、意に違ひたるか、違はざるかの氣色、少しも見え給はず、
六十歳の頃、我今は樂になりたりとのたまへり、

○按ズルニ、飲酒ヲ節スル事ハ、飲食部酒篇ニ載セタリ、